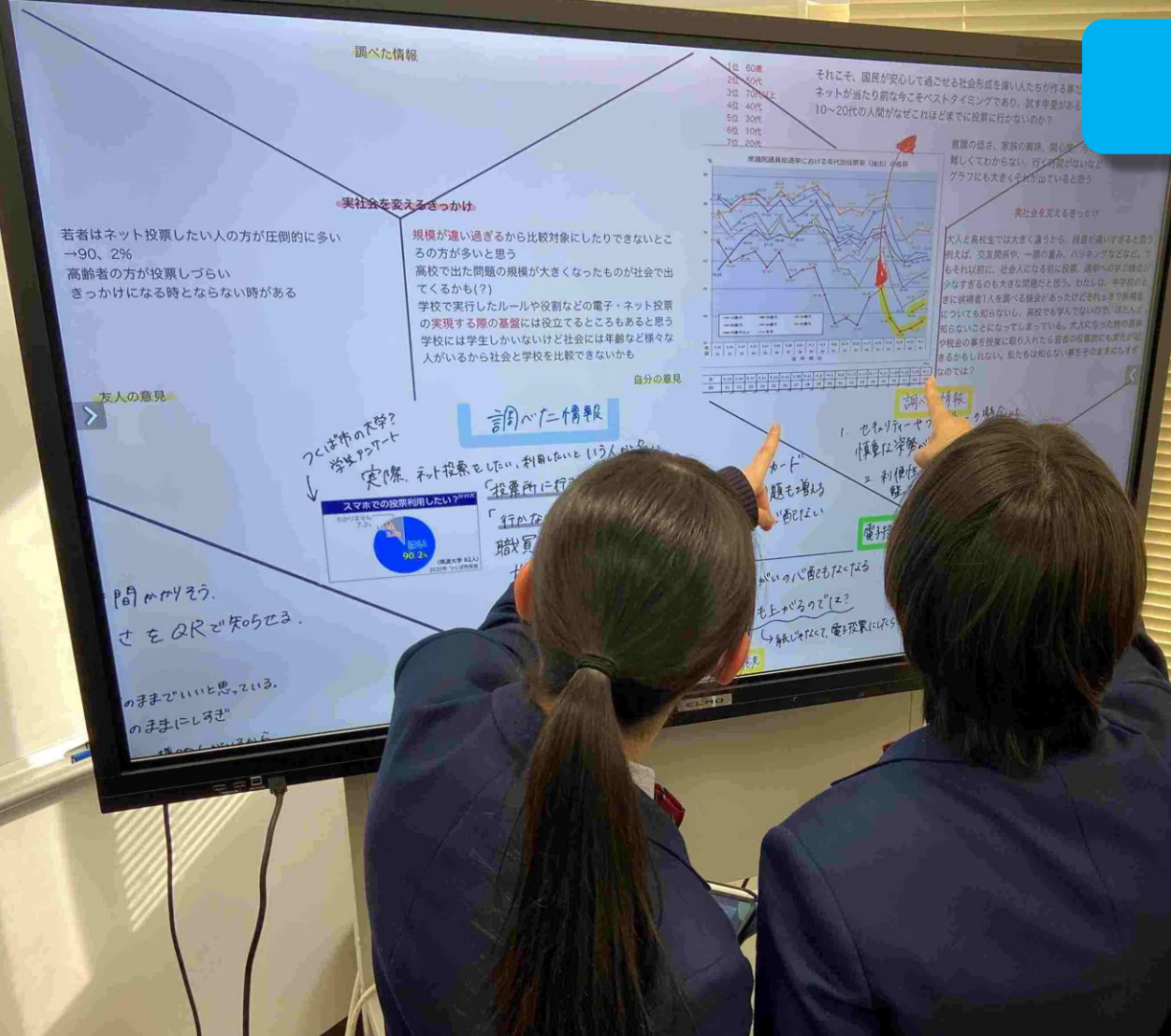


高等学校 生徒会活動（１）



委員会やホームルーム単位での話合いの状況をクラウドで集約し、全校生徒で合意形成を図る活動。

高等学校 生徒会活動（１）「生徒会役員選挙のルールを見直そう」

■本活動のねらい

生徒会活動において、学校全体の生活をよりよくするために話し合い、合意形成することで、よりよい人間関係を形成する。自治的な集団における活動の中で身に付けたことを生かして、多様な他者と協働し、学校や社会におけるよりよい生活づくりに参画しようとする事ができる。

■本活動の概要

学校生活の改善に向けた議題「生徒会役員選挙のルールの見直し」を取り上げ、基礎集団（ホームルーム、各種委員会・生徒会執行部）で話し合ったり、議題に係る課題を整理したりして、大集団（全校生徒）で合意形成し、実践し、振り返って次の活動につなげる。

■本活動の指導計画（３時間）

事前の活動（ホームルーム活動）

- ・生徒会執行部が議題を選定する
- ・ホームルームで議題を話し合う
- ・端末を活用して全校生徒の意見を聞く
- ・提案された議題と課題を全校生徒で確認する

本時の活動（生徒会活動）

「生徒会役員選挙のルールを見直そう」

- ・各種委員会と生徒会執行部で議題に関わる課題を整理する
- ・生徒会執行部で総会活動計画を立てる

事後の活動（生徒会活動・生徒総会）

- ・全校生徒で生徒会役員選挙のルールを見直す
- ・自分たちの手でルールを見直す自治的な活動が社会生活や社会参画につながることを見通し、活動を振り返る

■指導計画の概要

教師の適切な指導の下に、生徒会執行部が生徒会としての議題を選定し、ホームルーム活動で話し合い、議題に関する課題を整理する。

各種委員会と生徒会執行部単位で 議題「生徒会役員選挙のルールの見直し」についてクラウドでXYチャート・思考ツールを活用して話し合い、共有し、生徒会執行部は臨時生徒総会活動計画を見直す。

端末を活用して全校生徒で意見交換する。提案された議題とそれに関する課題を瞬時に共有できるようにする。まとめには端末を活用して合意形成する。

全校生徒という大きな集団での合意形成によって見直したり、つくられたりしたルールの尊さを確認するとともに、こういった自発的、自治的な活動が変化の激しいこれからの社会を生きていく上で必要な資質・能力につながることを見通し、一連の活動を振り返る。

■ 資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（本時の活動）

【学習活動の場面】

生徒全員が端末を持っているのに紙と投票箱を使用する生徒会役員選挙の方法は適切なのか、なぜ社会ではネット・電子投票は普及していないのか、生徒会役員選挙の方法や在り方に問題はないのか。こういった問題意識から本時は、各種委員会と生徒会執行部単位で議題「生徒会役員選挙のルールの見直し」について話し合った。

生徒は クラウドでXYチャートを作成して議題に関わる自己の考えを整理したり、他者の考えを理解したり、新たな考えを生み出したりした。その内容は瞬時に各種委員会や生徒会執行部間で共有された。

【子供の「深い学び」の姿】

生徒会執行部では実際の県選挙管理委員会からのヒアリングにより分かった事実、投票行動の特定やハッキング・通信障害の可能性、運用に係る予算という実社会での問題を強く意識した。そのため、本時前半では“端末活用の選挙には消極的な意見（Aグループ）”と“端末活用を推進する意見（Bグループ）”に分かれ、双方の問題点の指摘し合い「秘密選挙の原則はどうするのか」「いつまでアナログを続けるのか」など話し合いは対立、硬直化した。

しかし、その後共有される（全校生徒）の意見の中にあった「共通点はないか」「高校での取組が社会を変えるきっかけにならないだろうか」に触れ、本時後半では「端末を活用した選挙の方法に問題があればそれを解決するルールを自分たちでつくって守ればよいのではないか」と端末活用の賛否ではなく、どのように端末を活用すればよりよい選挙が実現するのかと話し合いの質が大きく変化した。

【当該指導での「深い学び」】

生徒は初期段階でこれまで通りの紙と投票箱を使用する選挙か端末を活用した選挙かの（対立）二者択一を話し合っていた。また、社会ではネット・電子投票が普及していないこと、端末を活用した選挙の問題点に引っ張られていた。しかし、クラウドにより瞬時に共有される各種委員会（全校生徒）の意見から、対立部分だけでなく共通点はないのか、社会ではうまくいっていないことでも高校では問題を解決するルールを自分たちでつくって守れば実現が可能なのではないかという目指す行為の抽出を経て、自発的、自治的な活動が促され、学びが深まっていった。

■ 指導上の工夫と ICTの利活用

① 全ての委員会で専門家の話を聞く。

* 専門家の話から自分たちの話合いの妥当性や根拠を確認する。

② 思考ツールを活用して、考えを整理しながら委員会や執行部単位で話し合う。

* 他の生徒の考えを知り、自己の考えと比較する活動を位置付け、自分の考えを深めていく。

③ クラウドを通じて意見を委員会・執行部間（全校）で共有する。

* 共有された情報から自分たちの意見との共通点や相違点を整理する。

④ クラウドを活用した意見共有から話し合い活動の質が深まる。

* 共有された全校生徒の意見を踏まえて、賛成か反対かではなく、問題があればそれを解決するルールを自分たちでつくって守ればよいという自発的、自治的な活動が促進された。



学習指導要領や解説との関連

学習指導要領 第5章 特別活動

第2【生徒会活動】の2

(1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営
生徒が主体的に組織をつくり、役割を分担し、計画を立て、
学校生活の課題を見いだし解決するために話し合い、合意形
成を図り実践すること。

第3【生徒会活動】2

(1)

ホームルーム活動及び生徒会活動の指導については、指導内
容の特質に応じて、教師の適切な指導の下に、生徒の自発的、
自治的な活動が効果的に展開されるようにすること。その際、よ
りよい生活を築くために自分たちできまりをつくって守る活動など
を充実するよう工夫すること。